

第6回 高山市平和都市宣言検討会議 会議結果

日 時	平成28年2月15日（月）19:00～20:30
場 所	高山市役所 2階201・202会議室
出席委員 18名 (敬称略)	黒木正之（会長）、元仲しのぶ（副会長）、小林伸子、岡田悦子、滝村一彦 谷口律生、池田光彦、谷口津弥子、小林 浩、銅島大衍 堀 泰則（代理者出席）、中澤澄夫（兼 堀委員代理）、住奥久隆、伊藤文子 平塚光明、坂本智樹、生田チサト、松原 滋、丸山永二
内 容	<p>○本日の会議の位置づけの確認</p> <p>班毎に分かれて文章作成する。本日（3月11日）の会議後の班長会議において、各班の成果を一枚にまとめ、次回の第7回にてその文案を議論していく。</p> <p>資料3 「高山市平和都市宣言文作成スケジュール」</p> <p>○資料の説明</p> <p>資料1-1と資料1-2は、「思い・要素の整理を十分にしたうえで、文章作成に取り掛かるべき」との前回会議での意見を受け、委員提出意見、これまでの検討会議の意見、市民意見、高山市平和サミットの結果を整理した資料。</p> <p>資料1-2は、意見を大きく二つ（宣言全体と文章の要素）に分け、更に中分類、小分類に整理した表。資料1-1は、資料1-2を分かりやすくまとめたもの。</p> <p>資料2は、班で文章作成する際のメモ用紙。</p> <p>資料1-1 「高山市平和都市宣言 文章作成に向けての整理」 資料1-2 「高山市平和都市宣言 要素整理表」 資料2 「高山市平和都市宣言 文章作成表」</p> <p>○文章作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4班に分かれて文章作成、発表

■ A班発表【黒木班長、小林(伸)委員、谷口(律)委員、池田委員】

- ・ 真の国際観光都市とは、単に誰かが来て、何かを見て、買って、帰っていただくだけではなくて、そこに、人々との交流、思いを知るといった部分がないと本当ではない。
- ・ この他にも様々な思いはあるが、それを全て盛り込むのはなかなか困難だろう。宣言文は、何とか、A4で1枚にまとめたい。
- ・ 宣言後の取り組みとして、インターネット、ツイッター、フェイスブック、ネット上の掲示板などで、「私の平和宣言」をするよう呼びかけてはどうか。「私は今年、これをしたい」、たとえば、「私は、日曜日には、外国人観光客と挨拶する」「今度、広島に行くので、一生懸命、広島のことを勉強する」といったもの。

柱（見出し）	文章
市の紹介	<p>豊かな自然に恵まれ、心温かな人々が暮らすわたくしたちのふるさと飛騨高山。このふるさととは、過去に生きてきた人々、今を生きる人々が伝統や文化を引き継ぎ大切に守ってきました。</p> <p>私たちは、世界の恒久平和を願い、9月21日を「平和の日」と定め、一歩を踏み出した。</p>
使命	<p>未来に生きる人々へ志を結び繋いでいくためには、先の大戦に学び、考えを深め、世界の現状を知り、自ら平和を求め行動していくことこそ、市民一人一人が使命として今為すべきことである。</p>
訴え・決意	<p>1.お互いを尊重し、理解を深め未来に生きる子どもたちに夢や誇りをもたせるため、世界の人々との交流に努め、暴力や核兵器をなくしていくため、世界のさまざまな都市や人々と連帯し、非核平和を訴えます。</p> <p>2.受け継がれてきた伝統文化や豊かな自然、人権が尊重される社会、思いやりにあふれた心温まる生活を繋いでいくため、過去に学び未来を創ります。</p> <p>わたくしたち高山市民は、世界の平和と安寧、人類の友愛を希求し、これらの想いを、訪れる人々や世界に発信することで確固たる決意とするため「非核平和都市」を宣言する。</p>

※ 囲みは、核となるキーワード。

■ B班発表【元仲班長、丸山委員、中澤委員、坂本委員】

- ・「戦争と核兵器」については、昨年10月30日の「高山市平和サミット」で、広島市長と長崎市長にお越しいただき、示唆に富むお話を頂戴したため、入れたい。「核」だけでは、原発まで含むため、「核兵器」としたい。
- ・宣言に向けて募集した市民意見では、普段の日常、日々の生活の安寧に平和を感じているとの意見が多かった。これは、「私たちは願っています。世界中の人々が安心して平和に暮らせる日が必ず来ることを。」で反映した。
- ・後々、このとき宣言したと分かるように、明確に市制80周年にあたって宣言したと文章に入れたい。

柱（見出し）	文章
市の紹介	<p>高山市は、飛騨山脈に代表される豊かな自然に恵まれ、長い歴史の中で、祭りや匠の技などの伝統文化を大切に育んできました。</p> <p>また、国内外から多くの観光客が訪れる国際観光都市として発展し、異文化交流が生まれ、相互理解がより深まっています。</p>
現状	<p>しかし、世界の各地では、紛争・テロ・飢餓が後を絶たず、核兵器の脅威にさらされている現実があります。</p> <p>高山市では、国際平和デーにあたる9月21日を「高山市平和の日」と定め、飛騨高山の地から、世界に向けて恒久平和の実現を訴えています。</p>
目標	<p>私たちは過去に学び、次の世代に伝えていきます。</p> <p>戦争と核兵器がもたらす悲惨さ、愚かさ、恐ろしさを。私たちは守り続けます。</p> <p>豊かな自然、誇れる伝統文化、人と人との絆、そして大切な命を。</p> <p>私たちは願っています。</p> <p>世界中の人々が安心して平和に暮らせる日が必ず来ることを。</p>
決意	<p>私たち高山市民は、市制施行80周年にあたって、恒久平和の実現に向けて行動することを決意し、国の内外に向けて、高山市が永久に平和都市であることをここに宣言します。</p>

※ 囲みは、核となるキーワード。

※波下線は関連する言葉。

■ C班発表【谷口(津)班長、生田委員、岡田委員、小林(浩)委員、住奥委員】

- ・市の紹介として、「豊かな自然に囲まれた高山、伝統文化・歴史のあるまち、人と人のつながりのあるまち」とした。
- ・世界の現状として、「平和が求められている現在、世界各地では争いが絶えず、未だに人権や環境が脅かされている。そこで、一刻も早い解決が求められている。」とした。
- ・平和の願いとして、「国際観光都市に生きる私達だからこそ、皆で心をつににして、差別や貧困をなくし、人権が守られる世界にしていきたい。」とした。
- ・市民の使命として、「郷土を守って伝えていく」
- ・取り組みとして、「命の大切さを次世代へ、平和の尊さを学ぶ」とした。
- ・定義は、まだ整理できていないが、「高山の平和を世界に広げる」とした。
- ・訴え、決意、誓いとして、「平和都市を宣言する、核のない世界、核兵器廃絶、持続可能な恒久平和を願う」とした。

柱（見出し）	文章
市の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然に囲まれた高山、伝統文化・歴史のあるまち、人と人のつながりのあるまち ・戦争犠牲
市民の使命	郷土を守って伝えていく
(世界の)現状	平和が求められている現在、世界各地では争いが絶えず、未だに人権や環境が脅かされている。そこで、一刻も早い解決が求められている。
平和の願い (取り組み) (定義)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際観光都市に生きる私達だからこそ、皆で心をつににして平和を願う。 ・差別や貧困をなくし、人権が守られる世界にしていきたい。 ・命の大切さを次世代へ、平和の尊さを学ぶ ・みんなで心をつににして平和を願う ・高山の平和を世界に広げる
訴え、決意、誓い	平和都市を宣言する、核のない世界、核兵器廃絶、持続可能、恒久平和を願う

■D班発表【平塚班長、滝村委員、銅島委員、伊藤委員、松原委員】

- ・市の紹介としては、普段の日常が一番大切だと考えた。我々は、隣の人の世話をやいたり、ものを持って行ったりする。人と人との絆がある。こういう生活を送っていることを踏まえて、我々の平和都市宣言をつくっていききたいし、市の紹介で、書いていきたい。
- ・観光客は、高山と違う文化の方。そういった異文化の方を理解し、尊敬し、知ることが大切。
- ・核兵器廃絶を踏まえながら、戦争のない世界の実現を目指していく。

柱（見出し）	文章
市の紹介	・高山市民は、飛騨の深い山並みに囲まれた伝統文化を大切にしているまちに住んでいます。（歴史のまち、自然への畏怖、先人の営みに感謝）
取り組み 次世代へ引き継ぐ	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の日常（家族や仲間の笑顔）、人と人とのつながり、安心・安全、山や水、文化遺産を次世代に引き継ぎ、伝えていきます ・未来を担う子ども達へ夢と誇りを ・安全、安心、快適（心のやすらぎ、高山らしい雰囲気）に生きられるまち ・身近な人とのつながりを大切にする。 ・多様な文化を知り、理解し、尊重していきます。（国際観光都市は、市民外交できる環境） ・産業の振興
訴え、決意	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争のない世界を実現していくことを目指します。 ・核兵器廃絶（未来志向） ・平和の鐘で世界を包みましょう

■各班発表後委員意見

- ・高山のもつ、落ち着きをもたらす静寂、静けさを豊かな文化の一つとして、表現に入れた方が良い。静かだから、平和になって自分を見つめられる。
- ・世界から高山を訪れる観光客の楽しそうな姿を見ると、「高山は、世界の人々の心のふるさと」という表現は、観光都市として素敵な表現ではないか。
- ・核兵器廃絶の根底にあるのは、平和を願う心だと思う。